

# 令和4年度 事業報告書

吉賀町社会福祉協議会

## 【目次】

I. 法人運営事業	1
II. 在宅福祉部	
《1》 総合相談支援課	
〈1〉 総合相談支援所	5
〈2〉 吉賀町シルバー人材センター	14
〈3〉 吉賀町地域包括支援センター	16
〈4〉 吉賀町ケアマネセンター	21
〈5〉 吉賀町訪問看護ステーション	23
〈6〉 障がい者就労継続支援事業所アスノワ	25
《2》 介護保険課	
〈1〉 吉賀町ホームヘルプステーション	28
〈2〉 六日市デイサービスセンター	30
〈3〉 七日市デイサービスセンター	32
〈4〉 柿木村デイサービスセンター	35
III. 施設福祉部	
《1》 特別養護老人ホームみろく苑	37
《2》 特別養護老人ホームとびのこ苑	40
《3》 グループホームあさくら	43
IV. 苦情・要望の内容一覧	46

# I. 法人運営事業

## 1. 主な取り組みと評価

- 2年目となる「ちいさな集い事業」は、この事業の趣旨や活動状況などを社協だよりなどで周知し、70団体への助成を行いました。また住民の互助力向上や地域の活性化をはかるため、新たに創設した「地域お助け事業」は、住民主体での活動を行う3団体へ助成を行いました。
  
- 令和4年度より受託した重層的支援体制整備事業は、令和5年度からの本格事業実施に向けた移行準備として多機関協働事業を実施し、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応するための包括的な支援体制の整備を行いました。
  
- 社協独自の地域貢献として運用を開始した「社協避難所」は、台風14号が接近した、令和4年9月18日から19日にかけて開設し、自主避難所への避難が困難な地域住民4名の利用がありました。
  
- 介護職員の人員不足に対応するため、介護職員初任者研修を実施し、12名の参加がありました。またヘルパーステーションのサービス提供体制を改善するため、社協内で協議を行い、総合事業のサービス類型の一つである「訪問型サービスA」の創設について、町長に提案書を提出しました。
  
- グループホームあさくらにおいて、ギャッジアップベットを9台と各居室及びリビングのエアコンを更新し、環境を整えました。特別養護老人ホームみろく苑では約8か月かけて給湯給水設備改修を行いました。またみろく苑の施設設備の老朽化に伴い、今後必要となるエアコンや大型備品の更新等に備えるため、6年間（令和5年度～令和10年度）の維持修繕計画を立案しました。
  
- 防災計画に基づいた災害発生時の対応や防災の基礎知識、権利擁護としての虐待グレーゾーンや、アンガーマネジメント、地域づくりなどをテーマとして、計4回の全職員研修を行いました。また次期リーダーを対象に、4回にわたってチームワーク向上のための研修を行いました。自分の属するチームを振り返る機会となり、良好なチームづくりに向け、学びが得られました。
  
- 新型コロナウイルス感染症対策会議を、週に1回の定例会議と臨時会議で計51回開催しました。

## 2、活動体制

### (1) 役員

会長	石井 澄男	副会長	木村與志雄
理事	田村 惇	理事	平田 京子
理事	榎田 祥恵	理事	堀江 英紹
理事	藤井 和子	理事	滝元 理恵
理事	永田 英樹 (令和4年5月27日まで)		
理事	中林知代枝 (令和4年5月27日から)		
理事	桑原 恒夫 (令和4年7月31日まで)		
理事	齋藤 義徳 (令和4年9月12日から)		
監事	上田 重夫	監事	田村 俊則

### (2) 評議員

村上 貢	赤松 正	吉岡 初枝
齋藤 幹子	河野 繁	小田 圭二
村本 智	永見 朋子	手島 秀知
植木由美子	能美 直文	朋澤 公香
前田 晴江		

### (3) 理事会の開催

第1回	5月18日
第2回	6月7日
第3回	9月2日
第4回	12月1日
第5回	2月24日
第6回	3月16日

### (4) 評議員会の開催

第1回	5月27日
第2回	6月21日
第3回	9月12日
第4回	12月12日
第5回	3月24日

(5) 部会の開催

- ・ 管理部会 第1回 11月15日 第2回 3月7日
- ・ 地域福祉部会 第1回 8月18日 第2回 11月29日  
第3回 2月21日

(6) 監事会の開催

- 第1回 5月16日 第2回 6月2日 第3回 8月31日
- 第4回 3月9日

(7) 職員数 218名（男性43名・女性175名）令和5年3月末

(8) 職員提案制度 提案数2件

3、研修・会議

研修内容	参加者
新任職員研修	新規採用 中途採用
全職員研修「アンガーマネジメント」「防災研修」「地域づくり」 「虐待防止グレーゾーン」	全職員
管理職研修「人事評価制度」「労務管理」「予算実績管理」 「法に関するQ&A」	主任・所属長
チーム力向上のための研修	中堅 リーダー層
社会福祉法人会計実務講座（入門・初級コース）	2名
介護労働者雇用管理責任者講習	2名
主任介護支援専門員更新研修	1名
成年後見制度啓発講演会	2名
福祉サービス苦情解決研修会	3名
ACP研修会	1名
災害ボランティア運営マネジメント研修	2名
介護事業所向けセミナー実践報告プログラム	1名
吉賀町防災訓練	1名
岩国市美川地区災害ボランティア	13名

高校生対象企業説明会	2名
大学卒業生対象企業ガイダンス	2名
益田圏域高等学校訪問	2名
災害ネットワーク協定連絡会議（オンライン）	2名
社協トップセミナー	1名
社協トップミーティング	1名
地域福祉推進委員会	1名
社協事務局長会議	1名
重層的支援体制整備事業実施市町村連絡会議	1名
苦情処理第三者委員会	3回
新型コロナウイルス感染症対策会議（毎月曜）	経営層

## II. 在宅福祉部

### 《1》総合相談支援課

#### 〈1〉総合相談支援所

##### 1、事業の主な取り組みと評価

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大により行動制限がある中、住民同士のつながりや互助力の強化に向けた取り組みを行いました。

地域のつながりの強化、再構築を目指して、実施した「ちいさな集い事業」は、70団体へ助成を行いました。身近な地域の中で様々な団体が立ち上がり、定期的集まるだけでなく、見守りやお互いに支え合う活動の場となりました。

地域の課題解決、困りごとの解決のために、住民グループ等が主体的に活動をすることで、地域住民の互助力の向上、活性化を図る目的で実施した「地域お助け事業」は町内の3団体への助成を行い、主体的な活動を支援しました。

町内の移動販売車の撤退もあり、買い物に困っている住民への支援として、軽度生活援助事業を利用した買い物代行を実施しました。この事業を踏まえ、より利便性のよい買い物支援体制が整備できるよう、関係機関と協議を行い、令和5年度は重層的支援体制整備事業において、取り組むこととしています。

##### 2、事業実績

###### (1) 地域福祉事業

町内の福祉に関する情報や制度について社協だより（広報誌：くらしもっと）等を通じて発信し、福祉事業や社会福祉協議会への理解が深まるよう努めました。

###### 社協会員の内訳

種別	件数
一般	1,617件
賛助	15件
団体	2件
特別	5件

社協だより（広報誌：くらしもっと）・福祉情報の発行：年12回

###### (2) 住宅改良助成事業

在宅の高齢者や身体障害者及び介護者の日常生活が円滑に行えるようにするための事業で、1件の相談がありました。

###### (3) 心配事相談事業

地域住民の抱える人権問題・福祉問題等さまざまな心配ごとの相談に対して

の解決策をみつけるため、福祉センター・公民館において相談事業をおこないました。

ふくし何でも相談会	12回実施、相談件数	1件
弁護士相談会	12回実施、相談件数	24件
行政書士相談会	3回実施、相談件数	1件
公証役場相談会	2回実施、相談件数	0件

#### (4) ボランティア事業

ボランティア活動の推進として、ボランティア保険の加入手続きやボランティア組織への支援を行いました。また、小・中学生を対象にサマーボランティアスクールを開催し、街頭募金の体験を通して共同募金やボランティアの仕組みを学びました。参加者から「ボランティアや福祉の仕事について興味が持てた」等の感想が得られました。

ニーズにあったボランティアのマッチングを迅速に行うため、登録者の希望するボランティア活動のリスト化をすすめ、ボランティアを通じた地域の助け合いの強化や繋がりづくりに努力しました。

六日市福祉ゾーン周辺清掃活動	5月28日
柿木福祉ゾーン周辺清掃活動	6月5日
サマーボランティアスクール（小・中学生）	11名
歳末たすけあい「おせち料理お届け事業」	205名
訪問員配置事業（契約に基づき独居等のお宅を月1～2回訪問）	
登録訪問員数	10名
新規契約件数	3件
契約利用者数	12名

#### (5) 小地域ネットワーク事業

住民が自発的に集まり運営する場として「ちいさな集い」事業を実施しました。地域の方が集うことで、地域のつながりを再構築し、住民同士の助け合い、支え合いを推進することを目的に助成を行いました。グループの数は70団体に増え、町内各地に様々なグループが立ち上がり、見守りや支え合いの場が広がりました。

また、地域の住民が主体となって地域で助け合える組織づくりを推進するため、職員が地域に出向き、取り組み状況や事業の課題について、3団体へヒヤリングを行いました。その情報を職員で共有し、互助力の向上に向けた地域のつながりの強化や地域の多様な課題に幅広く対応できる新たな「地域お助け事業」を実施し、3グループに助成を行いました。



以前から取り組んでいる「黄色い旗運動」を新規1地区で実施し、旗10本を配布しました。

ちいさな集いへの助成	70団体
参加延べ人数	400名
地域お助け事業への助成団体	3団体

#### (6) 訪問給食事業（食の自立支援事業）

管理栄養士と連携のもと、安心な地元のお店と食材を活用し、栄養バランスと高齢でも食べやすい形態が考えられた食事を提供しました。配達は、安否確認も併せ、地域のボランティアにより行いました。

月曜日・木曜日に実施

利用登録者	125名
年間配食数	9,488食
配食ボランティア	114名
調理ボランティア	38名

#### (7) 地域住民支援事業

コロナ禍で活動が実施できない地区もありましたが、サロンリーダーが中心となり、地域それぞれの特色を生かした「ふれあいサロン活動」が行われ、互助によるコミュニティ強化につながりました。

サロン実施地区	33地区
開催延べ回数	247回
参加延べ人数	3,364名
車両貸し出し	5地区

#### (8) ふるさと福祉事業（軽度生活援助事業）

在宅の高齢者のみの世帯などで、日常生活上の支援が必要な方が、自立した生活の継続を可能にするため、自宅の周りの草引きや清掃といった軽易な日常生活上の作業を行いました。

作業内容：屋内作業（居室の清掃・買い物代行）	
屋外作業（自宅周辺の除草）	
延べ利用者	51名
延べ協力者	76名
院内介助：延べ利用者	30名

#### (9) 資金貸付事業（民生融金貸付）

低所得者に対し、日常生活上緊急に必要な資金を一時的に貸し付け、福祉の増進を図りました。相談に応じ申請書類作成の支援を行うと同時に、償還についての助言を含めた支援も行いました。また、長期滞納者に対して民生児童委

員と連携を図りながら訪問し、償還指導を行いました。

貸付件数	9件
新規貸付決定額	290,000円
償還終了件数	10件

#### (10) 生活福祉資金貸付事業

低所得者世帯・障がい者世帯・高齢者世帯に対し経済的な自立を促す目的で資金の貸付を行いました。

生活福祉資金の相談を受け付け、申請書類等の作成を支援しました。滞納者に対し、県社協や民生児童委員と連携を図りながら償還指導を行いました。調査委員会を年1回開催し、適切な運営に努めました。

コロナ禍により収入の減収となった世帯への緊急小口資金の貸付が9月末に終了したことから、生活資金に不安を抱えておられる方への相談業務の強化に努めました。

総貸付件数（令和5年3月末現在）	28件（内、緊急小口資金17件）
新規貸付件数	2件
新規貸付決定額	400,000円
償還終了件数	1件
償還免除件数	2件
相談受付件数	9件

#### (11) 法人後見事業

後見事務が担える職員を担当者に偏らず、複数の職員で、後見業務を行い業務の負担軽減に取り組みました。

益田・鹿足後見センターの定例会に毎月参加し、益田圏域の後見情報について、交換を行いました。専門職や法人後見として、受任件数が増えており、市民後見の取り組みについて学びました。

利用件数	5件（令和5年3月末）
新規利用件数	1件
終了件数	2件

#### (12) 成年後見支援事業

吉賀町より吉賀町成年後見センターの受託を受け、認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者等、成年後見人制度を必要とされる方が、この制度を利用できるよう、広報、相談、関係機関とのネットワーク構築を行いました。

家族後見を担っている方から、今まで成年後見制度について、相談しやす

い機関がなく、センターの立ち上げにより、後見業務が安心して行うことができるようになったとの声もあり、センターへの今後の期待が伺えました。

○地域連携ネットワーク構築事業

- ・令和4年10月22日（土）成年後見制度啓発講演会  
講 師 美作大学 田中涼 先生
- ・令和4年11月11日（金）吉賀町成年後見センター運営協議会
- ・令和4年12月8日（木）成年後見制度移行検討  
ガイドライン活用セミナー
- ・令和4年12月22日（木）島根県成年後見制度利用促進協議会
- ・令和5年3月2日（木） 松江市社協の視察研修（2名参加）
- ・令和5年3月4日（土） 障がい者家族向け成年後見研修会（7名参加）

○広報事業

- ・令和4年7月3日（日）成年後見制度講演会  
講 師 山田さくら弁護士  
対象者 住民・民生委員（45名参加）
- ・令和4年10月8日（土）成年後見制度講演会  
講 師 山田さくら弁護士  
対象者 福祉・医療専門職（14名参加）

○相談事業

- ・住民からの相談 8件

○成年後見制度利用促進事業

- ・成年後見支援会議（専門職向け）4回開催（10件相談）
- ・アドバイザー（石西権利擁護推進センター：弁護士・司法書士・社会福祉士）

○後見人支援事業及び不正防止に向けた事業

- ・令和5年1月19日（木）「親族後見」向け研修会  
講 師 山田 さくら弁護士（3家族参加）

(13) 初任者等養成研修事業

介護人材が不足する中、介護人材の育成を目的に島根県より指定事業所の指定を受け、津和野町社会福祉協議会の協力も得て、介護職員初任者研修を実施しました。介護施設勤務で介護のライセンスを持たない方からの受講もあり、介護技術の向上に資する機会となりました。

研修講師の多くは社協職員が担い、学びなおしの機会となりました。

受講者 12名（内、町外者2名）

受講期間 令和4年8月6日～2月28日（144時間）

(14) 新型コロナウイルス感染症自宅療養者等生活支援事業

新型コロナウイルスの感染や濃厚接触者により、外出への制限があることから、行政より委託を受け、守秘義務を徹底した上で、買い物支援を行いました。この事業の周知として、町内の薬局へ、事業のチラシを配布していただきました。

利用件数 35件

(15) 日常生活自立支援事業（福祉サービス利用援助事業）

判断能力の不十分な方を対象に福祉サービスの利用にあたっての援助や相談支援、費用の支払いなどの支援を行いました。

利用者数 11名

新規利用者数 1名

(16) 吉賀町福祉センター管理運営事業

吉賀町から指定管理者として委任を受け、定期的に職員やシルバー人材センターによる草刈り、大雪時の除雪等の環境整備や清掃業者によるワックスがけを行い、福祉センターの適正な管理を行いました。台風や大雨が起こった時には破損した箇所がないか点検し、行政への報告を行いました。誰もが利用しやすい施設を目指し、カフェコーナーを設け、館内でインターネットが利用できるよう、Wi-Fiを設置しました。このことで、災害時の避難施設としても活用できるようになりました。

部屋の貸し出しへの利便性を高める為、スマートフォンやパソコンからでも予約ができる仕組みを作り、昨年度より大幅に利用される方が増加しました。

大会議室 263回

中会議室 159回

小会議室 483回

トレーニング室 206回

調理室 133回

相談室 238回

(17) 自立相談支援事業（生活困窮自立支援事業）

生活に困窮されている方の相談に応じ、困窮状態から早期に脱却できるよう、必要な情報提供や助言を行い、関係機関と連携しながら、本人の状態に応じた包括的かつ継続的な相談支援により、自立の促進を図りました。

た。また島根県社会福祉協議会と特定非営利活動法人ワーカーズコープより、自立相談支援、家計改善支援、就労準備支援についての研修を受け、支援者への支援方法を学ぶことができました。

全体支援件数	42件(男性27件、女性15件)
新規相談件数	6件(男性5件、女性1件)
相談内容：病気	2件
経済的困窮	3件
就職困難	0件
その他	1件
支援実績 電話・連絡	51回
訪問・同行支援	200回
面接	63回
他機関との調整	11回
その他	28回

#### (18) 家計改善支援事業（生活困窮者自立支援事業）

生活が困窮し、家計の見直しが必要な方に支援ツールを活用し、家計管理に関する助言を行いました。今年度はプロセスに沿った支援を意識し、対象者の実情に合わせた支援に努めるとともに、その家族に寄り添う形での伴走的支援を行いました。

新規相談件数	8件
家計支援	201回
電話・連絡	53回
同行支援	14回
面接	45回
その他	89回

#### (19) 就労準備支援事業（生活困窮者自立支援事業）

就労経験がない方、長期間、仕事に従事することができていない方、仕事が長続きしない方等、就労への難しさがある方に対して、面談、ハローワーク・企業への同行訪問を行いながら、仕事をしていくための能力の向上に向けた支援を行いました。就労準備の一つとして、社協だより（くらしもっど）の封入作業を行ってもらい、就労意欲を引き出せるよう支援し、2名の就労に結び付けることができました。

相談対応	16回
支援機関との合同面接・打合せ	3回

(20) 生活支援体制整備事業

地域住民の誰もが住み慣れた場所で安心して暮らせるよう、地域のつながり、助け合える関係作りを推進する目的のもと、公民館単位で地域支え合い会議を開催しました。それぞれの公民館単位での意見交換では、互助力の向上を意識した地域の中でのつながりの強化や助けあいの大切さを確認し合い、地域の取り組みの紹介や地域づくりに関係する機関との連携について話し合いました。

今年度より、福祉だけでなく、生活上の課題を共有する為、町長をはじめ、担当課の課長、職員にも参加していただきました。会議では活発な意見が出され、住民の互助意識が高くなってきていることを感じました。

フードバンクの取り組みは、生活困窮者自立支援事業と連動し、コロナ禍で所得の減少となった方など、食事に困っておられる方への支援を行いました。町内の郵便局やサンマートに設置した、フードバンクポストやみんなで応援プログラムの利用などにより、町内の住民のみならず全国の方から、多くの協力を得ることができました。

フードバンクを通じた福祉教育として、町内の小中学校で事業を紹介し、子どもたちが作ったポスターによる啓発を行いました。

○フードバンク利用 (計 138 回/985 品目)

・個人	18世帯 (114回)
・社協内他事業 (配食など)	4事業 (12回)
・他団体 (子ども食堂など)	4団体 (12回)

○フードバンクの寄付

・町内のフードバンクポストへの寄付	217品目
・Amazon みんなで応援プログラム	80品目
	(総額およそ104,738円)
・他団体からの寄付	9品目
・個人からの寄付	73品目
・お米の寄付	732kg

(21) 重層的支援体制整備事業

吉賀町において、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を整備するため、行政、よしかの里、地域包括支援センター、総合相談支援所で、事業の方向性を確認し合い、多機関協働事業の実施に向け協議しました。生活困窮者自立支援事業での事例をもとに、事例検討会を開催す

ることができ、令和5年度からの本格事業実施に向け、情報共有や役割分担を行い、多機関での支援体制の構築に向けて取り組みました。

多機関協働事業での支援件数 延べ2件  
 支援プラン作成件数 2件

### 3、研修、会議

研修内容	参加人数
福祉委員研修会 (6/25)	47名
ふれあいサロンリーダー研修・親睦会	56名
小地域ネットワーク聞き取り調査	33か所
子どもの未来応援セミナー (社協、七日市公民館、なないろ食堂) 10/3	8名
福祉職員キャリアパス対応生涯研修初任者研修	2名
社協職員基礎研修	2名
災害ネットワーク協定連絡会議	4名
災害ボランティアセンター運営者養成講座	2名
出雲市災害ボランティアセンター運営支援	2名
ボランティアコーディネーター研修	2名
益田地区社会教育連絡会	1名
益田・鹿足成年後見センター	12回
社協職員初任者研修	1名
ふくしの学び推進セミナー	2名
あいサポートメッセンジャー研修	1名
日常生活自立支援事業専門員研修	4名
日常生活自立支援事業研修会	2名
調停手続き説明会	2名
見守り訪問員座談会 4/22	7名
第1回見守り訪問員研修会 5/21	10名
第2回見守り訪問員研修会 11/19	10名
見守り訪問員交流会 12/2	9名
よしか音訳の会総会 (6/3)	8名
子ども・若者への向き合い方を学ぶ研修	3名
ひきこもり支援従事者研修会	4名
生活困窮者自立支援研修	4名
生活困窮者自立支援事業養成研修養成研修	2名
オレンジセイフティーネット説明会	2名

地域支えあい会議 朝倉地区	2回
地域支えあい会議 柿木地区 7/14、2/25	2回
地域支えあい会議 六日市地区	2回
地域支えあい会議 蔵木地区	2回
地域支えあい会議 七日市地区	1回
地域支え合い推進会議	1回
生活支援コーディネーター情報交換会	4名
生活支援コーディネーター養成研修	3名
生活支援体制整備事業研修	4名
重層的支援体制整備事業 z o o m研修	3名
県社協重層的支援体制整備事業連絡会議	3名
生活福祉資金調査委員会	10名
法人後見運営委員会	10名
成年後見制度連絡会議	2名
第2回子ども食堂交流広場（社協、なないろ食堂）1/28	5名
子ども居場所づくりコーディネーション研修 （社協、なないろ食堂、ぐるぐる食堂）3/8	7名
ボランティアありがとう会 3/18	79名
地域共生社会研修	2名
地域推進セミナー地域推進セミナー	2名
自立相談支援事業従事者養成研修	1名
家計改善支援事業従事者養成研修	1名

## 〈2〉吉賀町シルバー人材センター

### 1、事業の主な取り組みと評価

シルバー人材センター設立から9年目を迎えました。設立当初は将来的に、法人化することを視野に入れていましたが、運営委員会や理事会において協議した結果、運営規則等を改定し、令和4年10月から社協の事業組織の一つとして位置づけました。

会員数は目標としていた95名となり、受託請負金額は、目標1,700万円に対し、1,962万円で115.4%の達成率となりました。契約件数は目標750件に対し、819件となり、117%の達成率となりました。

仕事別受注件数では、草刈りの作業が6割を占め、田畑や家の周りの草刈りへの依頼が多くありました。地域の日常のお困りごとに対して、関わることができました。



## 2、事業実績

### (1) 会員数

(令和5年3月末日)

会員数	95人
新規入会者	16人
退会者	11人

### (2) 請負受注実績 受注件数 819件

配分金合計	16,983,087円
資材費合計	942,747円
事務費合計	1,695,131円
配分金総計	19,620,965円

### (3) 仕事別受注件数 受注件数 831件

除草作業・植木剪定	576件
片付け・運搬・清掃等	135件
障子・ふすま張替え	39件
その他	81件

(4) 作業中の人身事故 2件

(5) 作業中の物損事故 8件

## 3、研修、会議

研修内容	参加人数
シルバー人材センター運営委員会 (2回)	21名
新体制に関する説明会	24名
シルバー人材センター運営推進会議 (2回)	24名
派遣元責任者講習 (オンライン)	2名
事務局長会議 (オンライン)	1名
シルバー会員交流会	25名
シルバー会員健康講座	20名

### 〈3〉吉賀町地域包括支援センター

#### 1、事業の主な取り組みと評価

住民一人ひとりが望む生活が実現できるよう高齢化率の上昇や高齢世帯や高齢独居世帯が増えていく地域の特性や実情を把握しながら、吉賀町内の地域が抱える課題について医療・介護・福祉・介護予防の視点を持ち、専門的な機関・関係部署や地域の方々と連携しながら生活支援が包括的に提供されるように事業を行いました。

吉賀町において、最後まで自分らしい生活が送れるよう、六日市病院や行政など、関係機関と共に ACP と認知症をテーマとした映画会や研修を協働して取り組みました。地域包括ケアシステムの実現に向け、関係する団体、機関と同じ視点に立って取り組む事ができ、より連携を深めることが出来ました。

#### 2、事業実績

##### (1)総合相談業務

気軽に相談できる窓口として、くらしもっと内外の部署と連携して総合相談業務を行いました。複合的な問題が生じている場合には、関係機関や専門職と現状把握や情報の共有、意見交換、会議を実施し早期解決となるよう対応しました。

実施内容	件数
新規相談件数	149 件
相談対応件数	5,192 件
業務時間外のオンコール対応件数	362 件

##### (2)権利擁護業務

高齢になって認知機能や判断能力の低下などの生活上の困難がありながらも、住み慣れた地域で自分らしく生活できるよう権利侵害の予防や権利侵害からの回復、権利行使の支援を行いました。虐待に関する相談や通報があった場合には行政と協働し、迅速に対応しました。本人の意思が尊重され、安心して生活が送れるよう随時コアメンバー会議を開催し協議を重ねました。また、虐待対応専門職チーム（弁護士・社会福祉士）と定期的な相談及び連絡会を開催し、助言や指導を受けながら進めました。

実施内容	件数・回数
成年後見相談数	8 件(実人数 5 名)
益田鹿足後見センター定例会	5 回
コアメンバー会議	26 回(実人数 5 名)

虐待対応専門職チーム定例相談	6回
虐待対応専門職チーム員会議緊急招集	1回

### (3)包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

個別ケース会議とケアマネジメント支援会議を開催し、多職種・多機関協働のもとケース検討と地域課題の抽出をし、具体的な解決策に向けて検討を行いました。

また、切れ目のない医療と介護の提供体制の構築および医療・介護の連携推進を目指し、六日市病院・行政・保健所・各福祉事業所で定期的に在宅医療・介護連携会議を開催し協議を重ねました。ACPに関連した住民向け、従事者向けの映画上映会の開催と多職種による研修会を開催しました。

実施内容	回数
個別ケース会議	6回(実人数4名)
ケアマネジメント支援会議	12回(事例検討19件)
在宅医療介護連携会議開催	4回

### (4)介護予防ケアマネジメント業務

要支援・要介護状態となっても状態の改善、維持、重症化予防を図り、フォーマルサービス、インフォーマルサービスを活用して、事業対象者及び要支援1、2の介護予防ケアマネジメントを行いました。

介護予防ケアプラン件数は、年間合計1,696件、月平均141件でした。今年度に要介護から要支援に区分変更となった方は19人、要支援から要介護に区分変更となった方は22人でした。その都度ケアマネセンターと連携し、継続的な支援が受けられるよう対応しました。

#### ①介護予防支援（介護保険ケアプラン）件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	49	47	49	46	45	47	50	50	50	51	44	43
要支援2	49	50	49	51	50	52	52	54	60	58	56	51
計	98	97	98	97	95	99	102	104	110	109	100	94

#### ②介護予防ケアマネジメント（総合事業ケアプラン）件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業対象者	15	11	13	14	14	11	12	12	10	12	13	12
要支援1	21	18	19	18	17	17	17	16	19	19	21	21
要支援2	12	11	12	10	9	12	10	9	9	9	9	9
計	48	40	44	42	40	40	39	37	38	40	43	42

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
合計 (①+②)	146	137	142	139	135	139	141	141	148	149	143	136

#### (5)一般介護予防事業

令和4年度は既存の介護予防教室に加え、前期高齢者を対象とした筋力低下予防の取り組みとして『みらいトレーニング』を実施しました。

『脳活倶楽部』と『認知症講座』において、地域で気軽に参加できるように、福祉センターと複数の公民館をインターネット（ZOOM）でつなぎ開催しました。自宅から歩いて参加する方もおられました。

昨年に引き続き、法人内のリハビリ職に介護予防教室の講師を依頼し専門職と協働して取り組みを行いました。

実施内容	回数・人数
若返り測定隊（教室版）	3回実施延べ163名参加
若返り測定隊(出張版)	12回実施延べ161名参加
骨折転倒予防教室	8回実施延べ153名参加
からだ爽快教室	12回実施延べ393名参加
脳活倶楽部	4回実施延べ105名参加
みらいトレーニング	14回実施延べ67名参加
高齢ドライバー講座	2回実施26名参加
認知症予防講座	1回実施78名参加
食とお口の講座	1回実施22名参加
言語聴覚士サロン訪問	4回実施延べ53名参加
作業療法士サロン訪問	12回実施延べ166名参加
理学療法士サロン訪問	3回実施延べ40名参加
管理栄養士サロン訪問	7回実施延べ78名参加
レクリエーションサロン訪問	5回実施延べ83名参加
テイクテンサロン訪問	6回実施延べ61名参加
シルバー人材センター健康講座	1回実施20名参加

#### (6)認知症対策事業

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で安心して暮らし続けるため、認知症の人及びその家族に対して、介護者の会の開催、認知症初期集中支援チーム員と認知症サポート医との定期的な会議、アルツハイマーデー

での普及啓発活動等を実施しました。また、ソフトバンク株式会社が提供するオレンジセーフティネット事業を開始し、認知症等の病気や障害のある方が、行方不明となった場合に、迅速な捜査協力が得られる仕組み作りを行いました。

実施内容	回数・人数
キャラバン・メイト養成講座	新規参加なし
認知症介護者の会	9回開催 延べ39名参加
認知症初期集中支援チーム員会議	10回開催
オレンジセーフティネット	登録家族1世帯 登録協力者9名

### (7)障がい者相談支援

障害のある人が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう相談支援事業を実施しました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計画作成	1	3	0	2	3	1	1	2	3	1	3	2	22
モニタリング	6	3	6	9	4	6	9	3	5	9	5	5	70

### (8)介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、在宅介護実態調査の実施

吉賀町からの委託を受け、地域の抱える課題特定や、第9期介護保険事業計画作成や介護保険事業実施のための基礎資料とする目的として、一般高齢者、介護予防・日常生活支援総合事業対象者、要支援者の方に郵送でアンケートを行い、データ入力業務をおこないました。

## 3、研修・会議

研修・出張	参加者数
メンタルヘルス研修 アンガーマネジメント	6名
全職員研修（防災について）	6名
介護支援専門員研修（専門Ⅰ）	1名
R4年度成年後見人制度講演会 認知症になってもあなたを守る方法教えます	2名
主任介護専門員 更新研修	1名
顧問弁護士研修	1名
全職員研修（地域づくり研修）	7名
認知症地域支援推進員研修（新任者研修）	1名

令和4年度「適切なケアマネジメント手法」実践セミナー	3名
令和4年度避難行動要支援者・個別避難計画実務研修	2名
令和4年度益田圏域認知症支援懇話会	2名
中堅・リーダー研修	1名
令和4年度サービス管理責任者基礎研修	2名
認知症高齢者のACPと老衰の目安	2名
令和4年度成年後見制度研修会 知っておこう！成年後見制度の活用方法	3名
第4回地方創生医師団「HomeHospital」みんなが帰ってくる場所	3名
令和4年度島根県医療的ケア児等コーディネーター養成研修	1名
令和4年度吉賀町防災訓練	2名
令和4年度 認知症患者QOL維持・向上推進研修	1名
令和4年度 第3回認知症初期集中チーム員研修	1名
令和4年度シミュレーターを用いたフィジカルアセスメント研修	1名
改めて医療と介護の連携を考える	1名
あいサポート とっとりフォーラム23	1名
令和4年度 島根県介護支援専門員研修	1名
日本健康運動療法士会 更新必修講座	1名
令和4年度認知症地域医療連携会議 サポート医フォローアップ研修	1名
島根県ケアマネージャー研究大会	1名
在宅医療介護連携推進事業にかかる研修会	1名
虐待防止「グレーゾーンを考える」	5名
令和4年度 医療介護連携推進事業 ACP研修会	6名
成年後見センター総会及び定例会	2名
益田圏域認知症ネットワーク会議	1名
地域支え会い会議	5名
地域支え会い推進会議	2名
R4年度益田地区栄養士会 総会・研修	1名
益田地域介護支援専門員協会 役員会	1名
地域密着型サービス 運営推進会議 (みろく苑、とびのこ苑、七日市デイサービス)	3名
特別養護老人ホーム入居判定委員会	1名
養護老人ホーム入所者選考委員会	1名
吉賀町健康づくり健康推進協議会代表者会議	1名
民生委員・児童委員との連絡会議	10回

## 〈4〉 吉賀町ケアマネセンター

### 1、事業の主な取り組みと評価

在宅で介護を必要とされる方が自立した生活が送れるよう、関係機関と連携しながら、本人や家族への支援を行いました。給付管理は月124件の目標でしたが、112件の結果となりました。昨年度より88件減り、在宅介護の難しさや限界もあり、施設入所へ移行するケースが見受けられました。また、六日市病院のダウンサウジングにより、病床数が減ることで在宅への移行が予想されておりましたが、相談の増加とはなりませんでした。

災害が起こっても利用者や家族が適切な支援が送られるよう、社協避難所を企画し、行政との協議のもと開設することが出来ました。台風14号の際には3家族の受け入れを行いました。事業所としても災害時の運営のため、指針となるBCP作成や吉賀町が主催する防災訓練へ参加しました。

入退院時には病院の担当者との情報交換を行い医療サービスとの連携を図り円滑に在宅生活に復帰できるように支援を行い、退院・退所連携加算を年間35件取得するという目標を達成することが出来ました。

介護支援専門員の合格率が全国的に20%前後と狭き門となっている現状から、社協組織内で1名以上の合格者が出るよう、勉強会を開催し、2名が合格することができました。これからの介護支援専門員の育成を行いました。

### 2、事業実績

#### (1) 居宅介護支援業務

①居宅サービス計画の作成	1,351件	(月平均112.6件)
②要介護認定調査	22件	
③住宅改修支援事業	0件	
④給付管理	1,351件	
⑤地域包括支援センターとの連携		
地域ケア会議		適宜参加
ケアマネジメント支援会議		12回
⑥関係機関との連携		
医療介護連携会議		年3回
総合相談支援課連絡会議		年6回
認知症初期集中支援チーム員会議		年11回
退院・退所加算		35件
入院時情報連携加算		71件

⑦その他

ケアマネ伝達会議 毎週1回

介護支援専門員実務研修見学実習生受入 2名

24時間連絡体制を確保し、適宜相談業務実施

居宅介護支援提出状況

(単位：件数)

月別	介護給付					合計
	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
4月	44	37	12	8	6	107
5月	47	37	14	10	7	115
6月	50	36	15	10	6	117
7月	54	34	13	11	6	118
8月	53	34	16	10	6	119
9月	48	36	17	9	6	116
10月	51	35	18	9	6	119
11月	49	32	20	7	7	115
12月	46	30	19	7	6	108
1月	46	29	17	6	6	104
2月	54	30	11	5	4	104
3月	59	28	12	5	5	109
合計	601	398	184	97	71	1,351

(要介護1・2→12,374円 要介護3・4・5→16,077円)

3、研修、会議

研修名	参加者数
認定調査員研修	4名
権利擁護研修	4名
島根県ケアマネジャー研究大会	4名
島根県介護支援専門員協会ケアマネジメント研修会	3名
適切なケアマネジメント手法実践セミナー	2名
ケアプラン点検基礎研修	4名
コーチング研修	3名
高齢者住まいと看取り研修	4名
ACP研修	4名
排泄と栄養を考える	2名
地域づくり研修会	4名
メンタルヘルス研修	4名



重層的支援体制整備事業研修	2名
中堅・リーダー研修	1名
防災研修	4名
吉賀町防災訓練	1名
災害時の要支援者の対応対策会議	1名
医療介護連携会議	1名
認知症初期集中支援チーム員会議	1名
訪問リハビリカンファレンス	4名
ケアマネジメント支援会議	4名
所属長会議	1名
職員会議	4名
管理者研修	1名

## 〈5〉 吉賀町訪問看護ステーション

### 1、事業の主な取り組みと評価

今年度、新たにパート職員3名を採用し、社協内の他の事業所への円滑な人員派遣や新規利用者の受け入れができました。また、看取りの実績は5件で前年度の7件からやや減ったものの、スタッフの技術や意識の向上が見られ、さらに質の高い看取りが提供できました。利用件数も目標の月170件を上回り、平均192件で、在宅療養生活の一助となるサービスの提供に努めました。

多機関との連携システム「まめネット」については、導入済みの医療機関と、利用者の診療情報をリアルタイムで詳細に把握することができ、看護ケアに役立てることができました。

益田保健所や訪問看護ステーション協会など、地域の医療機関や関係団体主催の会議にも積極的に参加して、関係構築や医療情報や制度改正の情報収集に努めました。

### 2、事業実績

月別		介護保険		医療保険	合計
		介護給付	予防給付		
4月	実人数	21	12	6	39
	利用回数	109	40	34	183
5月	実人数	21	12	6	39
	利用回数	123	38	27	188
6月	実人数	21	12	6	39
	利用回数	121	36	25	182

7月	実人数	22	12	6	40
	利用回数	129	35	35	199
8月	実人数	21	11	5	37
	利用回数	128	37	37	202
9月	実人数	21	11	5	37
	利用回数	130	32	35	197
10月	実人数	22	11	6	39
	利用回数	117	36	50	203
11月	実人数	21	13	6	40
	利用回数	115	42	56	213
12月	実人数	18	14	7	39
	利用回数	84	48	61	193
1月	実人数	19	14	4	37
	利用回数	84	42	33	159
2月	実人数	18	14	5	37
	利用回数	96	49	49	194
3月	実人数	22	13	6	41
	利用回数	106	53	37	196
合計	利用回数	1342	488	479	2309

### 3、研修・会議

研修・会議名	参加者数
全職員研修（防災について）	6名
トランスファー研修	3名
新型コロナウイルス診療に関する研修	1名
顧問弁護士研修	1名
全職員研修（地域づくり研修）	3名
中堅リーダー研修	2名
新型コロナウイルス感染症（自宅療養者対応看護職員研修）	1名
ポジショニング実践セミナー（褥瘡予防、摂食嚥下）	4名
フィジカルアセスメント研修（初級編）	1名
フィジカルアセスメント研修（中級編）	2名
フィジカルアセスメント研修（応用編）	1名
訪問看護管理者研修（PDCA サイクル）	1名
虐待防止研修	2名
在宅医療介護連携推進事業（映画：ピア）	3名

ACP 研修	2名
吉賀町成年後見センター研修会	2名
ホームホスピタル研修（訪問看護協会支部長会）	1名
ケアマネジメント会議	1名
リハビリ会議	1名
地域福祉連絡会議	1名
医療介護連携会議（IK 会議）	1名
地域支えあい会議	1名
益田地域保健医療対策会議	1名
益田圏域難病対策地域会議	1名
新型コロナウイルス対策会議（コロナ・インフル同時感染）	1名
島根県訪問看護協会支部長会	1名
島根県訪問看護協会益田圏域支部会	1名
訪問看護定例会（職員会議）	8名
所属長会議	1名

## 〈6〉障がい者就労継続支援事業所アスノワ

### 1、事業の主な取り組みと評価

利用者の最初の一步を大切にしながら日常生活の自立・就労等を目標に訓練や相談を行い、なかなか利用につながらなかった方が年に数回でも利用することができました。また新規利用者1名の利用につながりました。一方、体調を崩し入院された利用者もあり、昨年度に比べ延べ利用人数は217人減少、1日平均利用は11.4人から10.4人と減少しました。

ポン菓子の製造、開発を行い、米、豆、マカロニを使用したポン菓子11種類のアスノワブランドが出来ました。アスノワショップ（七日市出張所）で販売を開始し、各種イベント、道の駅、関東のこだわり屋等でも販売した結果、工賃を時間240円から253円にアップすることが出来ました。

施設整備としては、アスノワ事業所にエアコン1台設置しました。

### 2、事業実績

#### (1) 利用実績

①利用者定員：アスノワ事業所：10名 アスノワショップ：10名

②利用状況：利用者平均年齢：63歳

③障害種別：身体・知的・精神・難病等

月	開所日数	利用者人数	延べ利用人数	1日平均勤務時間 (h)	利用者1日平均利用/定員
4月	26	18	296	58.2	11.3
5月	26	16	285	64.1	11.0
6月	26	16	264	58.5	10.1
7月	26	12	235	72.5	9.0
8月	27	15	272	62.8	10.0
9月	24	15	267	60	11.1
10月	26	16	280	61.7	10.7
11月	26	16	274	63.2	10.5
12月	24	15	255	58.6	10.6
1月	23	14	235	57.2	10.2
2月	24	14	242	70.0	10.0
3月	28	15	287	71.4	10.2
合計	306	182	3,192	63.1	10.4

(2)利用者への支払い工賃

①年間：2,870,816円

②1人当たりの時間額：253円

③平均工賃額：15,772円

(3) 利用者の仕事内容

委託者	作業内容	収入額 (年額)
とびのこ苑	館内の毎日清掃	1,196,448円
みろく苑	館内の毎日清掃	1,606,800円
七日市デイサービス	食事の配達・配膳	783,600円
吉賀町社会福祉協議会	福祉センター清掃	152,268円
	配食サービス	141,000円
	名刺	44,890円
	洗車	1,500円
吉賀町	保健センター館内の清掃	174,024円
	サクラマス交流センター厨房などの清掃	261,036円
	柿木庁舎の落ち葉清掃	30,166円
吉賀町農業公社	やくろ周辺の清掃作業	619,520円
	ボン菓子受注生産	73,700円
	よもぎの摘み取り	5,450円
アイコーポレーション	シール貼り	2,500円

島根県障がい者就労事業振興センター	まわたんぼ作り	70,400 円
道の駅、食と農、柿の里 こだわり屋・各種イベント等	ボン菓子の販売	557,197 円
その他	アスノワショップ（ボン菓子・手芸品の販売）	794,860 円
	手芸品・洋服の手直し等	73,127 円

#### (4) イベント

実施月	イベント名	場所	参加者
4月	アスノワショップオープン	アスノワショップ	利用者 14 名 職員 14 名
4月	七光保育所子供の日	七光保育所	職員 3 名 利用者 4 名
6月	母ちゃんの何でも市	立河内集会所	職員 2 名 利用者 1 名
11月	J A 収穫祭	JA 島根六日市支店	職員 4 名 利用者 3 名
3月	あったかフェスティバル	町民柿木体育館	職員 2 名 利用者 4 名
3月	仲間の集い ありがとう会	六日市基幹集落センター・福祉センター	職員 1 名 利用者 1 名
毎月	ひばりの会	福祉センター	職員 1 名 利用者 2 名

#### (5) 利用者レクリエーション

実施月	内容	場所	参加者
12月	お楽しみ会	柿木公民館	利用者 13 名 職員 7 名

### 3、研修・会議

研修名	参加人数
全職員研修（メンタルヘルス）	7 名
全職員研修（防災）	7 名
全職員研修（地域づくり）	7 名
全職員研修（権利擁護）	7 名
島根県衛生管理アドバイザー	1 名
粗率の勉強会	2 名
H A C C P 研修会	1 名

ほりうち商店研修	3名
さんさん牧場就労A型視察研修・精神障害者発表会	3名
虐待防止についての勉強会	6名

職員会議、所属長会議、安全衛生委員会、虐待防止委員会、身体拘束廃止委員会  
 こだわりや商談会、益田・鹿足地区生活支援連絡会議

## 《2》 介護保険課

### 〈1〉 吉賀町ホームヘルパーステーション

#### 1、事業の主な取り組みと評価

令和4年度は、スムーズなサービス利用につながらない状況があり、提供体制の改善として、社協内で協議を行い、総合事業のサービス類型の一つである「訪問型サービスA」の創設について、町に提案を行いました。

看取りについては、研修等に参加し看取り介護への理解を深めるとともに、他事業所と連携して支援を行いました。特に最期まで入浴支援したことは、その人らしいQOLを支えることが出来たと実感でき、改めて看取り介護の重要性を理解することができました。

介護人材確保のため実施した介護職員初任者研修に2名の講師を派遣し、実習の受け入れも行いました。

要介護の訪問回数は前年度4,449回から3,653回へと大幅に減少し、特に、要介護1、2の利用者の減少が目立つ結果となりました。コロナ禍や台風、積雪の関係で事業を縮小したことや新規があっても状態改善による中止、入院、入所、死去等で利用回数が伸びなかったことが要因と思われ課題となりました。

#### 2、事業実績

##### (1) 介護保険事業

月別		総合事業			介護給付					合計	平均
		事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5		
4月	実人数	4	12	14	10	14	2	4	5		
	利用回数	19	58	64	82	159	39	49	35	505	16.8
5月	実人数	3	12	14	10	10	2	3	4		
	利用回数	13	57	64	85	134	15	45	42	455	14.7

6月	実人数	5	12	13	11	14	2	5	5		
	利用回数	16	52	56	90	134	39	72	53	512	17.1
7月	実人数	4	13	11	15	7	4	4	5		
	利用回数	14	54	55	112	77	58	63	44	477	15.4
8月	実人数	4	13	12	14	7	4	3	5		
	利用回数	15	63	69	101	66	66	58	41	479	15.5
9月	実人数	3	13	12	14	6	7	4	4		
	利用回数	11	61	59	85	62	79	65	52	474	15.8
10月	実人数	3	13	11	12	5	7	4	5		
	利用回数	12	57	59	84	59	111	38	52	472	15.2
11月	実人数	3	13	13	11	5	7	2	5		
	利用回数	14	64	71	72	69	105	14	43	452	15.1
12月	実人数	3	6	5	10	3	6	2	3		
	利用回数	10	64	85	74	26	100	10	39	408	13.2
1月	実人数	4	6	5	11	3	6	2	4		
	利用回数	11	47	71	61	30	57	20	37	334	10.8
2月	実人数	4	4	5	11	3	4	2	5		
	利用回数	16	55	68	72	28	59	15	42	355	12.7
3月	実人数	4	6	5	16	4	4	2	5		
	利用回数	17	74	77	73	28	59	32	42	402	13.0
合計	利用回数	168	706	798	991	872	787	481	522	5325	14.6

(2) 障害者自立支援事業

居宅介護	利用者 13名	利用回数 538回
同行援護	利用者 1名	利用回数 3回
行動援護	利用者 1名	利用回数 19回
障害者移動支援事業	利用者 4名	利用回数 18回

(3) 移送事業

月別	利用者数	利用回数
4月	25	76
5月	17	57
6月	25	71
7月	24	73
8月	22	49
9月	23	58
10月	16	52
11月	23	82

12月	21	69
1月	27	68
2月	25	86
3月	25	80
合計	273	821

- (4) 生活管理派遣事業                      利用者 1 名                      利用回数 10 回  
(5) 子育て支援ヘルパー                      利用者 2 名                      利用回数 20 回  
(6) 軽度生活支援事業                      利用者 9 名                      利用回数 30 回

### 3、研修・会議

#### (1) 研修

研修名	参加人数
全職員研修：メンタルヘルス	5名
全職員研修：防災について	4名
全職員研修：地域作り	4名
全職員研修：虐待研修	4名
弁護士研修：権利擁護・リスクマネジメント	1名
身体拘束研修	3名
同行援護研修	1名
トランスファー研修	4名
リーダー研修	1名
看取り研修	1名
在宅医療と介護（映画）	3名

#### (2) 会議

担当者会議 職員会議 所属長会議 安全衛生委員会 地域支え合い会議  
リハビリテーション会議 ケアマネジメント会議 虐待防止委員会  
身体拘束廃止委員会

## 〈2〉六日市デイサービスセンター

### 1、事業の主な取り組みと評価

利用者の自立支援、重度化防止のため、百歳体操を毎月継続して取り組み、機能訓練加算を新規5名取得しました。ぎんなん入居者のデイサービス利用促進のため、定期的に意向確認を行いましたが、利用には至りませんでした。

コロナ禍で事業所を3日間休業したことやその後の利用控え、気象状況による休業、



入院、入所も多くあり、前年度に比べて延べ利用回数は42回減少、稼働率は70.1%、平均通所人数21.0人と目標値（稼働率73%、平均通所人数22人）にはわずかに届きませんでした。

施設整備としては、特浴機を更新し、シャワーチェアで座ったまま入浴することができるようになり、利用者が今まで以上に安心して入浴できるようになりました。また、脱衣所の引き戸3枚、ボイラー温度指示調整計の修繕を実施しました。

## 2、事業実績

### (1) 介護保険事業

月別	稼働日	総合事業			介護給付					合計	平均	稼働率(%)	
		事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5				
4月	実人数	21	2	16	14	16	11	4	2	1	66		
	利用回数	21	5	59	86	137	118	29	14	4	452	21.5	71.80
5月	実人数	22	2	15	14	19	11	5	2	1	69		
	利用回数	22	5	63	92	166	111	38	12	4	491	22.3	74.40
6月	実人数	22	2	16	14	17	11	3	3	1	67		
	利用回数	22	6	64	97	167	106	35	17	4	496	22.5	75.20
7月	実人数	21	2	15	12	16	10	4	2	1	62		
	利用回数	21	5	56	72	160	100	42	11	4	450	21.4	71.40
8月	実人数	23	2	15	12	17	12	5	2	1	66		
	利用回数	23	4	50	63	152	82	42	10	1	404	17.6	58.70
9月	実人数	22	2	13	13	19	10	4	2	1	64		
	利用回数	22	6	43	80	165	100	42	5	5	446	20.3	67.70
10月	実人数	21	3	13	12	20	11	4	1	1	65		
	利用回数	21	8	49	68	193	109	45	3	4	479	22.8	76.00
11月	実人数	22	3	12	11	22	9	5	1	2	65		
	利用回数	22	9	50	62	206	88	46	6	7	474	21.5	71.80
12月	実人数	22	2	12	13	19	10	4	1	2	63		
	利用回数	22	10	40	67	182	83	39	3	9	433	19.7	65.60
1月	実人数	20	2	12	10	21	9	5	2	2	63		
	利用回数	20	8	40	52	171	69	29	8	5	382	19.1	63.70
2月	実人数	20	4	12	12	20	10	2	2	2	64		
	利用回数	20	15	45	59	192	86	13	8	7	425	21.3	70.80
3月	実人数	23	4	15	9	23	9	3	2	2	67		

	利用回数		17	62	63	218	102	29	8	10	509	22.1	73.80
合計	利用回数	259	98	621	861	2109	1154	429	105	64	5441	21.0	70.10

※8月は3日間の休業（新型コロナウイルス感染拡大のため）

※9月は2日間休業（台風接近のため）

※1月は1日休業（雪のため）

## （2）行事

療育音楽（毎月）	音訳の会・ボランティア（毎月）
避難訓練（5月、11月）	吉賀高校アントレ（6月）
口腔指導	吉賀高校インターンシップ 利用者外出（柿木道の駅、花見）

## 3、研修・会議

研修名	参加人数
全職員研修①（メンタルヘルス）	7名
全職員研修②（防災）	7名
全職員研修③（地域づくり）	7名
全職員研修④（権利擁護）	8名
中堅・リーダー研修	1名
顧問弁護士研修	1名
島根県介護支援専門員協会研究大会（オンライン）	1名
管理者研修～介護現場におけるハラスメント対策（オンライン）	1名
映画上映会	2名
職場内研修（ポジショニング）	6名
ケアマネ研修（コーチング）	1名

### 会議

職員会議 担当者会議 所属長会議 デイ機能転換会議 安全衛生委員会 虐待防止委員会、リハビリテーション会議 六日市病院意見交換会

## 〈3〉 七日市デイサービスセンター

### 1、事業の主な取り組みと評価

「自己決定の尊重」と「自分で選択するデイサービス」を目標に業務改善を行い、入浴時間の自由化や利用者の希望にそった多くの行事企画を行いました。また利用

者、家族からの希望に柔軟に対応し、通所時間の変更や振替通所などを行いました。

機能訓練では利用者の身体の状態や機能を把握し、様々な道具を用いて、身体機能が向上するようなリハビリを実施しました。リハビリ内容や行事企画を充実させた結果、令和4年度は20名（総合事業：10名 地域密着：10名）の新規利用者の受け入れができました。一方、利用者の体調不良による入院やショートステイ利用の増加、8月にはコロナ禍による休業等があり、思うように稼働が伸びず、前年度と比べて延べ利用回数は、188回減少し、稼働率は59.1%となりました。

職員は、前年度から引き続き行っている内部研修や所長業務体験で習得した知識や技術を生かしながら利用者の体調の変化や自宅での困り事等を把握し、ケアマネジャーと連携しながら必要な福祉用具の選択・アドバイスが出来るようになりました。

## 2、事業実績

### (1) 介護保険事業

月別	稼働日	総合事業			介護給付					合計	平均	稼働率	
		事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5				
4月	実人数	21	6	8	9	11	3	2	0	1	40		
	利用回数		21	31	57	88	21	17	0	8	243	11.6	64.2
5月	実人数	22	5	8	8	11	3	3	0	2	41		
	利用回数		21	35	51	84	27	17	0	11	246	11.1	62.1
6月	実人数	22	5	8	8	11	4	3	0	1	41		
	利用回数		22	31	43	72	20	16	0	9	213	9.7	53.8
7月	実人数	22	7	8	9	14	4	1	0	2	45		
	利用回数		23	28	56	78	25	9	0	17	236	10.7	62.4
8月	実人数	22	7	7	8	12	5	2	0	2	43		
	利用回数		15	25	33	50	19	10	0	17	169	7.8	42.6
9月	実人数	22	5	9	8	12	4	1	0	2	41		
	利用回数		20	34	51	64	22	19	0	21	231	10.5	58.3
10月	実人数	21	5	9	9	11	4	0	0	2	40		
	利用回数		20	36	62	67	22	0	0	23	230	11	60.8
11月	実人数	22	5	9	11	9	3	2	0	3	42		
	利用回数		22	33	81	67	9	12	0	22	246	11.2	62.1

12月	実人数	23	3	8	13	10	4	2	0	3	43		
	利用回数		12	34	90	57	19	26	0	28	266	11.6	67.1
1月	実人数	19	3	7	13	11	4	2	0	3	43		
	利用回数		10	24	71	45	20	22	0	22	214	11.3	62.5
2月	実人数	20	2	6	11	10	4	3	0	2	38		
	利用回数		8	23	64	50	21	25	0	22	213	10.7	59.1
3月	実人数	23	3	8	9	9	3	2	1	2	37		
	利用回数		12	33	72	62	10	29	5	25	248	10.8	62.3
合計	利用回数	259	206	367	731	784	235	202	5	225	2755	10.6	59.1

※8月は7日間の休業（コロナウイルス感染拡大のため）

※9月は2日間休業（台風接近のため）

※1月は1日休業（雪のため）

## (2) 行事

初詣	お花見（桜）	お月見会
柏餅作り	ゆずみそ作り	干し柿づくり
運動会	避難訓練	忘年会
手芸	吉賀中学校企画	七日市小学校企画
吉賀高校実習受け入れ	町内ドライブ	買い物ツアー
七夕	彼岸花見学	おしるこ作り
紅葉ツアー	ゆず風呂	マジックショー

## 3、研修・会議

研修名	参加人数
所属長会議	1名
全職員研修:メンタルヘルス	3名
全職員研修:防災	3名
全職員研修:地域づくり	3名
社内研修:勤怠システム指導	3名
社内研修:褥瘡について	8名(七デイ3、訪看5名)
社内研修:トランスファー研修	10名(七デイ3訪看3ヘルパー4)
社内研修:利用者の急変時の対応	3名
防災研修	1名
所属長対象:勤怠システム研修	1名
介護予防教室(年間4回)	1名
予算研修	1名
ケアマネジャー研修	1名

職員会議 担当者会議 所属長会議、デイ機能転換会議、安全衛生委員会、虐待防止委員会、

#### 〈4〉柿木村デイサービスセンター

##### 1、事業の主な取り組みと評価

今年度は、アクティビティとして「かご作り」をメインに取り組みました。自力でかごを作れるようになった利用者もあり、作成したかごは、福祉センターやあったかフェスティバルで販売を行いました。約1万2,000円の売り上げがあり、その一部を寄付することができ、やりがいや社会参加する喜びを提供することができました。また、野菜作りでは収穫祭を5回行い、利用者に喜んでいただきました。

財務面では、個別に機能訓練を行うことで、ADL（日常生活動作）が改善し、令和5年度からADL維持等加算を算定することが可能となりました。しかし、利用者数の減少が顕著となり、延べ利用回数は昨年度と比べ578回減少、稼働率は59.6%（上半期65.0%、下半期54.1%）まで落ち込みました。介護度の高い方の入所が相次ぎ、利用頻度が減少したことや、新規利用者が増えなかったことが原因と思われ、地域密着型（小規模型）施設への移行について町を含めて検討を行いました。

職員は、職員同士でいいところ探す相互評価を行うことで、良いコミュニケーションが図れモチベーションアップにつながりました。

##### 2、事業実績

###### (1)介護保険事業

月別	稼働日	総合事業			介護給付					合計	平均	稼働率	
		事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5				
4月	実人数	21	1	8	9	12	10	2	4	0	46		
	利用回数		4	34	57	127	91	27	57	0	387	18.4	73.7
5月	実人数	22	1	7	9	12	10	3	5	0	47		
	利用回数		4	30	68	114	74	27	67	0	384	17.5	69.8
6月	実人数	22	1	8	9	12	8	4	5	0	47		
	利用回数		5	36	63	118	60	29	73	0	384	17.4	69.8
7月	実人数	21	1	7	8	9	10	3	5	0	43		
	利用回数		4	29	53	85	89	18	60	0	338	16.0	64.3
8月	実人数	23	1	6	8	9	9	3	5	0	41		

月	利用回数		5	20	59	84	71	17	69	0	325	14.1	56.5
9月	実人数	22	1	6	8	8	10	2	4	0	39		
	利用回数		4	22	62	74	84	14	49	0	309	14.0	56.1
10月	実人数	21	1	6	9	8	11	3	4	0	42		
	利用回数		4	23	58	90	79	13	40	0	307	14.6	58.4
11月	実人数	22	1	7	8	10	9	2	3	1	41		
	利用回数		5	26	59	92	86	5	36	5	314	14.2	57.0
12月	実人数	22	1	7	8	11	8	2	2	1	40		
	利用回数		4	27	59	99	65	27	11	4	296	13.4	53.8
1月	実人数	20	2	6	8	9	6	3	1	0	35		
	利用回数		5	21	56	85	46	26	6	0	245	12.2	49.0
2月	実人数	20	2	6	7	10	7	2	1	1	36		
	利用回数		8	19	54	99	55	20	5	4	264	13.2	52.8
3月	実人数	23	1	7	6	12	7	2	1	0	36		
	利用回数		5	31	48	125	66	29	7	0	311	13.5	54.0
合計	利用回数	259	57	318	696	1182	866	252	480	13	3864	14.9	59.6

## (2) 行事

誕生会 (毎月)	所外活動 (年3回 花見、紅葉狩り)
調理実習 (カレー、豚汁、焼き芋、切り干し大根、干し柿)	
かごづくり (毎月)、作品作り	

## 3、研修、会議

研修名	参加人数
全職員研修：メンタルヘルス	3名
全職員研修：防災について	5名
全職員研修：地域作り	1名
全職員研修：虐待研修	2名
弁護士研修：権利擁護・リスクマネジメント	1名
管理者研修：予実管理	1名
島根県老人福祉協議会研修	1名

職員会議 (毎月)、サービス担当者会議、所属長会議、デイ機能転換会議、安全衛生委員会、虐待防止委員会

### Ⅲ. 施設福祉部

#### 《1》 特別養護老人ホームみろく苑

##### 1、事業の主な取り組みと評価

入居者一人ひとりがその人らしく生活を続けられるよう、みろく苑の運営理念である「ご利用者様に対し尊敬、思いやりの心で接し、自律した生活の支援」の提供に努めました。令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響で様々な制限のある生活となりましたが、感染予防を徹底し行事や外出・面会などを行いながらストレスの軽減を図り、クラスターを起こすことなく事業運営が出来ました。看取り介護は3年目を迎え、心身の状況に合わせたケアや食事の提供及び環境作り、家族や本人の希望に寄り添った細やかな配慮を心掛け6名の方の看取りを行いました。

今年度は入退所が22名と多く、稼働率は入所が95.8%、短期も65.8%といずれも目標を下回りました。日々コスト削減を意識し業務を行いました。光熱費等の高騰が影響して、支出が当初の予算額を大きく上回りました。人材育成については、各研修に参加をして自己研鑽を行いました。根拠のある介護を実践するための勉強を継続し、科学的介護推進体制加算、栄養マネジメント強化加算、排泄支援加算を取得することができました。虐待防止については、委員会において3ヵ月毎の目標を決めて取組み前と取組み後の自己評価をし、現状認識を行いながら取り組みました。

施設整備は、大規模な給湯給水設備改修工事を約8ヵ月間かけて終え、今後6年間の維持修繕計画を策定しました。

##### 2、事業実績

###### (1) 動向

月	入居者	退居者	入院者数	入院延べ日数	稼働率
4月	1名(小規模) 2名(地域)	1名(小規模) 2名(地域)	1名(小規模) 0名(地域)	11(小規模) 0(地域)	97.8
5月			4名(小規模) 0名(地域)	32(小規模) 0(地域)	98.3
6月			4名(小規模) 1名(地域)	92(小規模) 8(地域)	93.3
7月			3名(小規模) 1名(地域)	75(小規模) 6(地域)	94.8
8月	3名(小規模) 2名(地域)	3名(小規模) 2名(地域)	5名(小規模) 0名(地域)	86(小規模) 0(地域)	93.0

9月	1名(地域)	1名(小規模)	4名(小規模) 0名(地域)	66(小規模) 0(地域)	94.9
10月	1名(小規模) 1名(地域)	1名(小規模) 1名(地域)	3名(小規模) 0名(地域)	41(小規模) 0(地域)	91.9
11月	2名(小規模) 2名(地域)	2名(小規模) 2名(地域)	1名(小規模) 0名(地域)	7(小規模) 0(地域)	98.8
12月	1名(小規模) 1名(地域)	1名(小規模) 1名(地域)	1名(小規模) 0名(地域)	4(小規模) 0(地域)	97.7
1月	1名(小規模) 1名(地域)	1名(小規模) 1名(地域)	2名(小規模) 1名(地域)	33(小規模) 4(地域)	97.1
2月	2名(小規模)	3名(小規模)	2名(小規模) 2名(地域)	3(小規模) 48(地域)	93.7
3月	1名(小規模)		0名(小規模) 1名(地域)	0(小規模) 27(地域)	98.1
合計	22名	22名	36名	543日	95.8

(2) 介護度別人数

月	要 介 護 度					平均値
	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
4月	0	2	14	13	23	4.1
5月	0	2	14	13	21	4.1
6月	0	2	14	13	21	4.1
7月	0	2	14	14	20	4.0
8月	0	2	14	15	22	4.1
9月	0	2	13	14	21	4.1
10月	0	2	13	14	22	4.1
11月	0	1	14	14	23	4.2
12月	0	1	16	13	22	4.1
1月	0	1	16	13	21	4.1
2月	0	1	16	14	21	4.1
3月	0	1	16	13	20	4.0

(3) 短期入所生活介護サービス利用状況

月別	前年度のべ利用者数	今年度のべ利用者数	稼働率
4月	181	131	54.5
5月	224	154	62.1
6月	170	118	49.2
7月	182	206	83.1
8月	213	174	70.2



9月	200	152	63.3
10月	179	150	60.5
11月	160	166	69.2
12月	197	162	65.3
1月	186	176	71.0
2月	174	173	77.2
3月	168	159	64.1
合計	2234	1921	65.8

### 3、研修、会議

研修名	参加人数
全職員研修	36名
入職時研修（随時）	8名
全職員研修 アンガーマネジメント	35名
認知症研修 脳を元気に保つために	1名
災害時研修	37名
事故・感染研修	32名
認知症介護基礎研修 eラーニング	2名
看取り研修	5名
権利擁護研修（弁護士）	2名
全職員研修 地域づくりについて	27名
腰痛や施設内の転倒防止	1名
権利擁護研修 対人援助に活かす自己覚知	21名
ハラスメント研修	44名
ACP研修	29名
排泄研修	14名
成年後見制度について	1名
町の防災研修会	1名
苦情について	1名
褥瘡研修	31名
認定調査員研修	1名
中堅研修 チーム力向上のために	4名
全職員研修 グレーゾーンについて	37名
権利擁護研修 コミュニケーションについて	17名
事故・褥瘡研修	16名
感染研修	16名
ACP研修	5名
YYK（よりよい介護：移乗方法等の研修）	延べ97名

## 《2》 特別養護老人ホームとびのこ苑

### 1、事業の主な取り組みと評価

とびのこ苑の理念のもと自立支援介護を実現するために、自立支援委員会の活動を中心に入居者の意欲の種を見つけ、ニーズに応じた支援計画を作成し、自立支援促進加算及び排泄支援加算を取得することができました。加算取得に着手しただけでなく、委員会活動を通して職員個人が責任や役割を果たし成長を感じることができました。また、新型コロナウイルス感染防止においても職員一人ひとりが感染防止に努め、入居者が感染することはありませんでした。

稼働率については、入所は 97.2%で目標稼働率を達成できましたが、短期入所は 71.5%で目標稼働率には届きませんでした。入居者の重度化や高齢化が進む中においても、入院者数は前年比でかなり減少することができました。看取り支援については 9 名の方をお看取りし、昨年 の 件数を上回りました。短期入所については、定期的な利用者の入院や施設入所により、町内の利用者が減少しましたが、緊急の利用や町外の利用者を積極的に受け入れしました。

施設整備については、小規模型のホール、居室の照明を LED 照明に更新し、さらに各居室の洗面台を車椅子の方が使用しやすいものに更新しました。

### 2、事業実績

#### (1) 動向

月	入居者	退居者	入院者数	入院延べ日数	稼働率
4月			2名(小規模) 1名(地域)	14(小規模) 6(地域)	98.7
5月			1名(小規模) 2名(地域)	13(小規模) 6(地域)	98.8
6月		1名(小規模)	0名(小規模) 2名(地域)	0(小規模) 24(地域)	98.1
7月	1名(小規模)		2名(小規模) 2名(地域)	20(小規模) 42(地域)	95.6
8月	1名(地域)	1名(地域)	0名(小規模) 3名(地域)	0(小規模) 9(地域)	99.0
9月			1名(小規模) 2名(地域)	24(小規模) 40(地域)	95.7

10月	1名(地域)	1名(地域)	0名(小規模) 2名(地域)	0(小規模) 37(地域)	97.2
11月	1名(小規模) 1名(地域)	2名(小規模) 1名(地域)	1名(小規模) 0名(地域)	10(小規模) 0(地域)	98.7
12月	1名(小規模) 2名(地域)	2名(地域)	1名(小規模) 1名(地域)	2(小規模) 24(地域)	97.7
1月	2名(小規模)	2名(小規模)	0名(小規模) 2名(地域)	0(小規模) 48(地域)	95.9
2月	1名(地域)	1名(小規模) 1名(地域)	3名(小規模) 0名(地域)	19(小規模) 0(地域)	97.2
3月	1名(小規模)		3名(小規模) 0名(地域)	85(小規模) 0(地域)	94.0
合計	12名	12名	31名	423日	97.2%

(2) 介護度別人数

月	要 介 護 度					平均値
	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
4月	0	1	8	18	23	4.3
5月	0	1	8	18	23	4.3
6月	0	1	8	18	23	4.3
7月	0	1	8	18	23	4.3
8月	0	1	8	19	22	4.2
9月	0	1	9	20	22	4.2
10月	0	1	9	20	20	4.2
11月	0	1	9	21	21	4.2
12月	0	1	10	19	22	4.2
1月	0	1	10	18	23	4.2
2月	0	1	10	19	21	4.2
3月	0	2	9	19	20	4.1

(3) 短期入所生活介護サービス利用状況

月別	前年度延べ利用者数	今年度延べ利用者数	稼働率%
4月	84	78	65.0
5月	120	98	79.0
6月	78	94	78.3

7月	100	113	91.1
8月	107	84	67.7
9月	132	99	82.5
10月	116	87	70.2
11月	95	78	65.0
12月	102	80	64.5
1月	118	93	75.0
2月	86	65	58.0
3月	91	75	60.5
合計	1229	1044	71.5

### 3、研修・会議

研修名	参加人数
全職員会議	39名
人事評価面接について	5名
虐待防止研修（コミュニケーション）	21名
全職員大会・アンガーマネジメント研修	37名
全職員研修・防災	35名
防災講演会	1名
特養での看取り ACP の実践について研修	3名
感染症研修	35名
全職員研修・地域づくり	39名
排泄介助勉強会	14名
褥瘡予防研修	17名
安全管理研修	37名
虐待防止研修（コミュニケーション）	35名
感染症・BCP 自然災害	23名
排泄介助勉強会	19名
権利擁護研修	39名
排泄介助勉強会	45名
映画上映会（ピア～まちをつなぐもの～）	2名
安全管理研修	17名
ACP 研修（看取り研修）	12名
転倒・予防災害防止研修	1名
安全・安心な介護介護に役立つバイオメカニクス	3名
防火管理者研修	1名
バイオメカを活かす移乗介助	3名
中堅・リーダー研修	4名

介護職員初任者研修	2名
認知症基礎研修	2名
社会福祉施設における新型コロナウイルス感染症対応研修	2名

### 《3》 グループホームあさくら

#### 1、事業の取り組みと評価

令和4年度の重点目標である「科学的根拠に基づいた介護の視点を持ちつつ、個人の尊厳や意思を尊重したその人らしい生活」に向けた支援の実践を目指しました。毎日の昼食を入居者と一緒に作りはじめて1年が経過しました。新型コロナウイルスの影響で外出制限のある中においても、入居者ができることを続けていくことで、その人らしい生活を支援することができました。入居者が楽しみにされていた、地域のサロンがコロナで中止となる時期もありましたが、関西地方の大学生達の計らいで吉賀町に居ながらにしてリモートで大阪見物を体験することができました。

昨年に引き続き、各医療機関や訪問看護、栄養士との連携のもと入居者の健康管理に努めた結果、入院が少なく、平均稼働率が99.2%となり、目標を達成することができました。そして、コスト削減についても一人1つアイデアを出しながら、日常より業務改善の意識を持ち、全員で取り組んだ結果、物価高騰の中でも食費、水道光熱費を前年とほぼ変わらない支出で抑えることができました。

社協内での研修にもできる限り全員参加するよう努め、職員の意識の向上を図ることができました。また、5年度に取り組む看取りケアの実践に先駆け、研修会を開催、全職員が受講し、体制づくりができました。

施設整備については、ギャッジアップベッドを9台購入、エアコンを各居室、リビングなどに新規更新し、環境も整えることができました。

#### 2、事業実績

##### (1) 利用状況

(単位：人・日・%)

	利用者数	延利用者数	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	稼働率
4月	9	252	0	1	4	4	1	0	93.3
5月	9	279	0	1	4	4	1	0	100
6月	9	270	0	1	4	4	1	0	100
7月	9	272	0	1	4	4	1	0	97.5
8月	9	279	0	1	4	4	1	0	100
9月	9	270	0	1	4	4	1	0	100

10月	9	279	0	1	4	4	1	0	100
11月	9	270	0	1	4	4	1	0	100
12月	9	279	0	1	4	4	1	0	100
1月	9	279	0	1	4	4	1	0	100
2月	9	252	0	1	4	4	1	0	100
3月	9	279	0	1	4	4	1	0	100
合計		3260	年間稼働率 $3260 \div (365 \times 9) = 99.2\%$						

(2) 通所介護

(単位：人・回)

	利用者数	延利用者数	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
4月	1	3	0	0	0	3	0	0
5月	1	5	0	0	0	5	0	0
6月	1	4	0	0	0	4	0	0
7月	1	4	0	0	0	4	0	0
8月	1	3	0	0	0	3	0	0
9月	1	4	0	0	0	4	0	0
10月	1	5	0	0	0	5	0	0
11月	1	4	0	0	0	4	0	0
12月	1	4	0	0	0	4	0	0
1月	1	4	0	0	0	4	0	0
2月	1	4	0	0	0	4	0	0
3月	1	3	0	0	0	3	0	0
合計		47	0	0	0	47	0	0

(3) 行事

戸外活動・・・お花見、外出支援（散髪、受診）、紅葉狩りなど

脳活倶楽部、地域サロン参加

毎日の昼食作り（今年度より本格的実施）、朝食も手作り開始

誕生日会、敬老会、畑作業、花壇作り

3、研修、会議

研修名	参加人数
メンタルヘルス研修	10名
全職員研修（防災研修）	10名
顧問弁護士研修（所属長）	1名
全職員研修（地域づくり研修）	11名

看取り研修（事業内研修）	9名
新型コロナウイルス感染症対策研修（リモート）	1名
A C P 研修（医療介護連携推進事業）	3名
全職員研修（グレーゾーンを考える）	9名
権利擁護研修（施設福祉部）	5名
映画上映会（ピア～まちをつなぐもの～）	7名
防火管理者研修	1名

#### IV.苦情・要望の内容一覧

	発生時期	部署・事業所	苦情・要望の内容
1	4月	総合相談支援所	フードバンク寄付への職員の電話対応について
2	6月	総合相談支援所	地域住民への職員の対応について
3	8月	みろく苑	転倒後の対応について
4	8月	ヘルパーステーション 地域包括支援センター	ヘルパーサービスの利用について
5	8月	柿木村デイサービス	送迎時の対応について
6	9月	総合相談支援所	訪問給食サービスについて
7	9月	ヘルパーステーション	ヘルパーサービスの利用について
8	10月	総合相談支援所	福祉委員への対応について
9	11月	六日市デイサービス	介助の方法について
10	12月	総務部 総合相談支援所	福祉委員の報酬について
11	12月	六日市デイサービス	入浴サービスについて
12	3月	総合相談支援所	職員の態度について
13	3月	アスノワ	職員の言動について
14	3月	アスノワ	職員の態度について



## 事業報告の附属明細書

令和4年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していない。

社会福祉法人 吉賀町社会福祉協議会